★「ライトトリガーマダイ」の詳細、当日の模様は近日ユーチューブ動画で公開される

西伊豆 土肥沖 釣行レポ

信頼のタックルで大ダイにチャレンジ アシュラス ライトトリガーマダイ

Ahsuras Light Trigger MADAI 230 TB & 225

◉新感覚コマセダイロッド「アシュラスライトトリガーマダイ」にふさわしい釣り場が西伊豆土肥沖。同社フィールドテスター杉山純一朗、本田雅秀が今シーズンも大ダイの記録を塗り替えるべく土肥沖通いが始まった。

釣行3日前に7.4キロのモンスターサイズが上がり、2人のテンションはいやが上にも高まる。

もちろん、タックルと仕掛けに不安はなし。杉山さんは「ライトトリガーマダイ」ソリッドタイプ、本田さんは同じくチューブラータイプを使用。仕掛けは2人とも「匠ハリス」5号9メートル、同4号6メートルの2本バリだ。杉山さんのハリに比較して本田さんはエサを大きく見せるため、やや大きめのハリを使用している。

7時に出船し、まずは土肥沖のタナ45メートルで釣り開始となった。とび島丸の鈴木船長はピンポイントのタナを指示し、食い気のあるマダイを浮かせて釣るスタイル。

そのため乗船者のチームワークが重要で、合図とともに投入し、指示ダナからハリス分沈めた位置からコマセをまきながら、ピッタリとタナに合わせる。これが大ダイを仕留める道筋でもある。

ところが前日までとうって変わってマダイの食いは渋い。マダイがなかなか浮いてこないのである。

それでも船長の細かいアドバイスと正確なタナ指示のおかげで、ポツポツながらマダイが顔を見せ始める。

まずマダイを掛けたのは本田さん。ライトトリガーマダイにふさわしくワンハンドで竿を操作し、高く構えた位置からロッドワークで落とし込んでいく釣り方。軽さと操作性を生かした釣り方で、きれいな1キロ級を取り込んだ。

一方の杉山さんは小型のカンパチを釣った直後、ようやくマダイらしいアタリをとらえた。杉山さんの釣り方は、付けエサの姿勢を保ちつつ、リールから少しずつ道糸を出しながら落とし込む釣り方。波を吸収するソリッドの柔軟性を生かし、落とし込みを止めたときにフワッとオキアミを動かすイメージだ。

掛けた後の曲がりはこの竿の特長でもある。美しいベンディングカーブを見せつつ、時おり訪れる強い引きにバットのパワーが粘り強く押さえ込む。同じく1キロ級ながら、1枚目にホッとひと息の表情だ。

しばらくして船長は南寄りの釣り場に移動させる。ここは本田さんが過去に10・1キロを釣った験のいい所だという。

期待どおり、本田さんがアタリをとらえた。穂先がフワッと動いた瞬間、スッと竿を持ち上げて魚が動いた直後に合わせを入れる。

「これは少し型がいいみたいですよ」と言いながら、低い姿勢でドラグを滑らせるベテランらしい安心のヤリトリ。強い引きをいなしながら海面に浮かせたのは2キロ級だった。

杉山さんには大型のアマダイがきて、

「さあこれからか」と思ったものの、この日のマダイの活性は今一つ。盛り上がりのないまま15時の納竿を迎えた。

「初期は好不調の差があるのはやむを得ないところ。懲りずに通えばきっといい日に出会えるはずです」とは2人の弁。

これまでの実績から今シーズンも「大ダイ上がる」の吉報が届くのは間違いないだろう、それも2人の手で……。

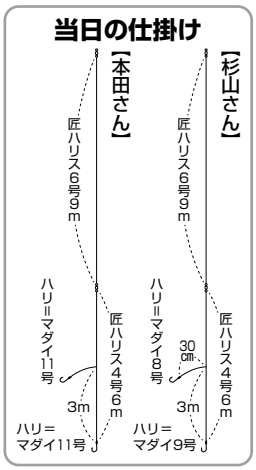
▲道糸を少しずつ引き出して仕掛けを落とし込む杉山さん

▶当日最大は本田さんの手に

▲船中では1キロ級メインだった

▲食いの悪い日はサイズも今一つ

当日の仕掛け



Ahsuras Light Trigger MADAI 230 TB & 225

◉Presented by Ahsuras アシュラス ☎0495・71・8331　◉取材協力=西伊豆土肥恋人岬・とび島丸